

## 昭和 59 年度役員会

と き： 昭和 60 年 5 月 21 日 (火) 14: 00~15: 30

と ころ： 石狩会館 4 階かつら

出 席 者： 会長 町田利武・副会長長縄高雄・幹事長高橋毅

コンクリート研究委員長 藤田嘉夫・同幹事長代理大橋 猛

鋼道路橋研究委員長 渡辺 昇・同事務局長 青木 弘・舗装研究委員会幹事長 久保 宏・同事務

局長 上井偉誉・土質基礎研究委員長代理 佐々木晴美以下のほか本会主事 小住勝雄

町田会長のあいさつ後、つぎの議事を行った。

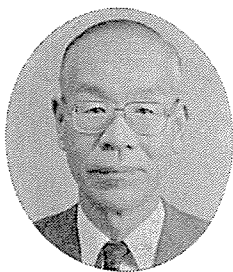
## 議 事

1. 土木技術会本部昭和 55 年度から昭和 59 年度までの会計報告
2. 各研究委員会の事業ならびに会計報告
3. 昭和 60 年度事業として新たにトンネル研究委員会を発足させることについて後程 3 役で検討することです承
4. 会長・副会長・幹事長の改選について

○町田会長から長期就任を理由に辞任の要望があり、また高橋幹事長からも同様に辞任の要望があつて了承され、後任として下記のとおり選任された。

会 長	尾 崎 晃	北海道工業大学教授
副 会 長	長 縄 高 雄	関竹中土木常務取締役
同	渡 辺 健	北海道開発局土木試験所長
幹 事 長	久 保 宏	北海道開発局土木試験所第 3 研究部長

## 御 挨拶 (尾 崎 晃)



土木技術会々員の皆様にはいよいよ御健勝にて日常の業務に御精進のこととお慶び申し上げます。平素は大変ご無沙汰致しておりますことに申しわけございません。

さてこの度昭和 59 年度役員会の結果、次期会長を引き受けるようにとの御意向のもとに町田前会長の後任を仰せつかりました。その任にあらざとは存じますが、このうえは本会の長い歴史と輝かしい伝統を傷つけぬように誠心誠意努力致したいと存じます。つきましては会員の皆様から暖かい御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

甚だ簡単ではございますが就任の御挨拶と致します。

## 各研究委員会の最近の活動状況

1. 鋼道路橋研究委員会 (委員長 渡辺 昇 副委員長 熊谷勝弘, 島 泰 事務局長 青木 弘 会員 150 名)  
昭和 58 年度事業報告  
(1) 文献小委員会 (小委員長 渡 辺 昇)

「Der Stahlbau」からドイツの鋼橋設計図(1972~1975)を抜粋し、編集印刷製本して会員に配布した。

(2) 設計仕様小委員会 (小委員長 熊谷勝弘)

- 1) 「北海道における鋼道路橋の設計及び施工指針」改訂版を作成し配布した。
- 2) 講習・講演小委員会の協力を得て、前記指針の解説を目的とした講習会を帯広市(12月6日)、及び札幌市(12月9日)で開催した。
- 3) 橋梁景観に関し、有志による検討会を3回行った。

(3) 講習講演小委員会 (小委員長 中村明道)

- 1) 現場見学会 58.9.6 於 上川町 参加者 33名  
旭川開発建設部、日本鋼管㈱の後援により、「北海道における耐候性鋼材裸使用の道路橋の設計及び施工指針」に基づき設計、製作、施工した第1号の一般国道273号「三国橋」の現場見学を行った。帰路旭川市内の「旭橋」を見学した。

2) 講習会 58.12.6 於 帯広市民会館 参加者 144名

「北海道における鋼道路橋の設計及び施工指針」説明会

1章 設計条件	北海道大学	渡辺昇
2章 耐震設計	道開発コンサルタント	九里忠正
3章 構造計算及び細目	道開発コンサルタント	山下敏夫
4章 床版	北海道大学	渡辺昇
	道開発コンサルタント	山下敏夫
5章 斜橋のけた倒れ	道開発局	本名一夫
6章 鋼材の防錆	道開発局	本名一夫
7章 維持補修	道開発局	本名一夫

3) 講習会 58.12.9 於 自治会館 参加者 272名

内容、講師は前項と同じ

4) 講演会 59.2.10 於 道建設会館 参加者 249名

「最近の橋の話題」

北海道大学 渡辺昇

「新しい形鋼の利用」——合成床版橋梁など

川崎製鉄㈱ 石渡正夫

映画上映「新しい鉄の時代をめざして」

「新しい土木建材製品」——深礎工法用ライナープレート他——

川崎製鉄㈱ 小関楯志

「複合鋼板(ステンレスクラッド)の新しい製造法と利用」

川崎製鉄㈱ 服部邦宏

スライド上映「耐候性鋼」

5) 講演会 59.2.14 於 石狩会館 参加者 250名

「溶接技術の最近の進歩と今後の方向」

川崎重工㈱ 松井繁明

「斜張橋の設計と非線形問題」

川崎重工㈱ 長井正嗣

「橋桁に作用する空力減衰について」

川崎重工㈱ 小川一志

「鋼構造物の生産における自動化工場へのアプローチ」

川崎重工㈱ 武隈一成

「最近の大型橋の施工諸列」

川崎重工㈱ 奥山守雄

6) 講演会 59. 2. 24 於 石狩会館 参加者 139名

「ザイールマタディ橋(長大吊橋) 工事について」

石川島播磨重工業㈱ 下 瀬 健 雄

「箱桁断面を有する長大橋の耐風安定性の研究について」

石川島播磨重工業㈱ 原 公

「合成桁の床版張替工法について」

石川島建材工業㈱ 富 沢 三 郎

「ミシシッピー川橋の架設工事について」

石川島播磨重工業㈱ 永 松 太 郎

7) 講演会 59. 3. 2 於 石狩会館 参加者 126名

「接触式高力ボルト支圧接合法について」

北海道大学 渡 辺 昇

「耐候性鋼の裸使用によるプレハブ橋梁」

住友金属工業㈱ 松 田 章

「根入れ式鋼板セルの施工」

住友金属工業㈱ 高 瀬 幸 紀

(4) 振動小委員会 (小委員長 芳 村 仁)

1) 「北海道における鋼道路橋の設計及び施工指針」の改訂に伴ない、「2章耐震設計」の内容検討及び講習会で当該部分を担当した。

2) 北海道における「地盤振動」の研究のあり方について検討した。

3) 1982年3月21日浦河沖地震に関する研究を行った。

(5) 技術調査小委員会 (小委員長 吉 田 紘 一)

耐候性鋼材無塗装鋼橋(東峰橋, 尻別跨線橋, 及び二杆橋)の現場見学会(59. 7. 17)を行い, 11名の委員が参加した。

(6) 鋼橋歴史編さん小委員会 (小委員長 上 田 義 昭)

「北海道における鋼道路橋の歴史(本編)」を発刊し, 会員に配布並びに中央官庁, 学校, 図書館などに寄贈した。

(7) 事務局 (事務局長 青 木 弘)

1) 昭和58年度総会(58. 9. 12)を開催し, 総会議事録を会員に送付し, 総会決議事項の報告を行った。また新年度委員の委嘱事務を行った。

2) 指針など文献の販売, 道土木技術会本部への賦金(賛助金1,720千円の5%, 86千円)の納入, 賛助金の収金各小委員会への支出などの出納事務。

3) 総会準備のための常任委員会の開催(59. 8. 29)

2. コンクリート研究委員会 (委員長 藤田嘉夫 副委員長 井藤昭夫・戸部智弘, 幹事長 太田利隆 会員62名)

昭和58年度

1. 委 員 会

第一回委員会 58. 5. 27 自治会館

昭和57年度決算, 昭和58年度予算, その他

第二回委員会 58. 11. 25 石狩会館

土木学会・コンクリートポンプ施工指針案, 同・まだ固まらぬコンクリートに関する用語案, に対する意見交換, その他

2. 幹 事 会

第一回幹事会 58. 6. 30 石狩会館

土木学会・流動化コンクリート施工指針案に対する意見収集, その他

第二回幹事会 59. 5. 17 石狩会館

昭和58年度経過報告, 昭和59年度予算案, その他

### 3. 見学会

58. 11. 2 北海道縦貫道北郷高架橋ほか

### 4. 講演会

第一回講演会 58. 11. 25 石狩会館

PRCについて (横道英雄)

第二回講演会 59. 1. 30 石狩会館

大型コンクリートタンク—LNG 地下タンクほか (久保田宗孝)

映画「貯える技術」

新しい吹付けコンクリートシステム—NWS システム (中原 康)

高品質水中コンクリート—ハイドロクリートほか (重松和男)

第三回講演会 59. 3. 7 石狩会館

流動化コンクリートにおける施工の合理化 (宮地直樹)

コンクリートの高強度化 (中川晃次)

即時脱型コンクリートブロックの凍結融解抵抗性 (服部健一)

寒中コンクリートの合理化 (児玉和巳)

## 昭和 59 年度 (中間報告)

### 1. 委員会

第一回委員会 59. 5. 17 石狩会館

昭和 58 年度決算, 昭和 59 年度予算, その他

第二回委員会 59. 12. 5 石狩会館

土木学会コンクリート標準示方書改訂案に対する検討グループの設置, その他

### 2. 幹事会

第一回幹事会 59. 8. 7 石狩会館

本年度の行事予定, その他

### 3. 示方書検討会

第一回検討会 60. 1. 29 石狩会館

第二回検討会 60. 3. 29 石狩会館

### 4. 見学会

59. 9. 5

定山溪ダムおよび付帯道路橋梁, 札幌市地下鉄東豊線北 27 条地区泥水固化壁

### 5. 講演会

第一回講演会 59. 12. 5 石狩会館

世界初の北極海向けコンクリート鋼製複合型プラットフォームの建造 (丹羽元和, 太田隆義)

海岸コンクリート構造物の凍害対策の考え方 (鮎田耕一)

第二回講演会 60. 1. 28 石狩会館

地下連続壁工法に関する最近の技術 (芳賀孝成)

映画「WALL FOUNDATION 連続剛体基礎」「LNG 地下式貯槽工事 東扇島 LNG 基地」

コンクリート施工の合理化に関する最近の技術 (芳賀孝成, 十河茂幸)

コンクリートの耐久性向上について (十河茂幸)

第三回講演会 60. 3. 8 石狩会館

新高性能モルタル (NEM) について (小出儀治, 下林清一)

セメント硬化体の緻密性 (坂井悦郎)

北方圏諸国におけるコンクリート構造物の劣化対策 (佐伯 昇)

3. 舗装研究委員会 (委員長 菅原照雄, 副委員長 松尾徹郎, 高橋 毅, 幹事長 久保 宏, 事務局長 上井偉誉  
会員 78 名)

舗装研究委員会は昭和55年5月に設立以来満5年を経過したが、構成する①要綱仕様、②講演講習、③舗装史編さん、④技術研究の各小委員会で地道な活動を行っている。その主たるものは主要官公庁における工事仕様の見直しを始め舗装講演会ならびに地方都市における技術講習会の開催であり、北海道舗装史は昭和60年6月には発刊の運びとなり、また本道舗装工事設計施工の運用指針の策定作業にも入っている。さらに昭和59年度には日本・カナダ科学会議の流れを受けてカナダのW. A. ファル氏とJ. H. カイザー氏を札幌へ招へし国際技術講演会を開催して日・加の国際交流を深めた。

#### 昭和59年度事業報告

##### (1) 要綱仕様小委員会 (小委員長 中川 昇)

第1回小委員会(59. 7. 23)、第2回小委員会(59. 11. 14)、第3回小委員会(60. 3. 11)において、北海道開発局、道土木部道農地開発部、札幌市、日本道路公団の主要発注機関毎に仕様書の比較検討を行った。その結果「アスファルト舗装関係仕様書の相違点について」B-4判(47ページ)を300部印刷して関係機関に配布し、昭和60年度事業執行と仕様書改訂作業の資料となっている。

##### (2) 講演講習小委員会 (小委員長 川端陸夫)

第1回小委員会(59. 5. 22)、第2回小委員会(59. 7. 18)、第3回小委員会(59. 11. 29)において下記の見学会、講演会講習会を実施すべく検討を行った。

###### 1) 見学会(昭和59年8月30日) 参加者 43名

北電話局の通信衛星システムとう洞工事、でんでん橋、定山溪ダム工事、月見橋中央通りのブロック舗装などを見学した。

###### 2) 舗装講演会(昭和59年10月22日) 参加者 120名

「冬期道路の維持管理に関する講演会」

○ケベック州におけるスパイクタイヤによる舗装の摩耗と融氷剤の使用について

モントリオール大学工学部教授 J. H. カイザー氏

○オンタリオ州における道路の維持管理システムについて

オンタリオ州交通通信省舗装調査部長 W. A. ファン氏

###### 3) 第5回舗装講演会(昭和59年12月4日) 参加者 209名

○北海道の開発と道路

北海道開発コンサルタント(株)専務取締役 佐藤幸男氏

○PIARC会議と最近の舗装の話題

熊谷道路(株)取締役技術研究所長 南雲貞夫氏

###### 4) 舗装技術講習会(函館会場 昭和60年2月8日 参加者246名、網走会場 昭和60年2月13日 参加者246名)

○北海道における舗装の移り変わりについて

北海道開発局土木試験所企画課長 三浦宏氏

○軽交通舗装について

札幌市建設局道路建設課主幹 佐藤 敏 氏

○アスファルト舗装の維持修繕と特殊工法

東亜道路(株)札幌支店長付 斎藤忠夫氏

○舗装工事の検査について

北海道開発局道路建設課開発専門官 中川 昇 氏

##### (3) 舗装史編さん小委員会 (小委員長 三浦 宏)

第1回小委員会(59. 11. 22~25)、第2回小委員会(60. 1. 17)、第3回小委員会(60. 3. 2)において「北海道舗装史上巻」B-5判約500ページの原稿作成、印刷校正を行い、60年6月発刊に向けての検討を実施した。

##### (4) 技術研究小委員会 (小委員長 佐藤 敏)

第1回小委員会(59. 5. 18)、第2回小委員会(59. 6. 22)、第3回小委員会(59. 8. 13)において、下記の事項に関して討議を行った。

- 1) 北海道におけるアスファルト舗装の建設と維持のための運用指針の作成
- 2) 軽交通道路舗装に関する調査
- 3) 舗装の摩耗